1

SIA豊洲プライムスクエア

設計：清水建設

環境に向き合うシンプルな要素が紡ぎ出す豊かな風景へ

牧住敏幸 | Toshiyuki Makizumi

変化していく新しいまち、豊洲

都心に程近く大規模な開発が進むまち、豊洲。“隣都心”と呼ばれ始めたこの地域では、造船や電力といった工場や倉庫の跡地に、業務系、住宅系双方の大型の開発が進み、新たな職住近接のまちが生まれつつある。大正から昭和の初めにかけて埋め立てられ、将来の発展を願い豊かな土地になるように「豊洲」と命名されたこの土地は今、新たなステージで“豊かなまち”へと変貌しつつある。

「SIA豊洲プライムスクエア」は、豊洲中心地区の10,000m^{2}ほどの敷地に建つ延べ約42,000m^{2}の複合施設であり、1、2階が飲食・物販店舗、3−12階は1フロア3,000m^{2}のオフィスとなっている。

この建物の位置する豊洲5丁目地区では、再開発によるまちづくりと共に地区計画が制定され、既存市街地の生活環境維持と開発の調和を目指して、景観ガイドラインや貫通緑道の整備が盛り込まれた。本プロジェクトは、地区計画制定後の第1号プロジェクトとして地域からも注目され、地域環境の向上に寄与するとともに事業性のある計画としていくことが大きな命題であった。

まちへの配慮と事業性の確保

地域環境への対応として、総合設計の公開空地に緑を増やし、グリーンガーデンと名付け、地区の中央を貫通する緑道沿いに配置した。ビル前面に単に広いだけの空地を設けるのではなく、地区緑道に接した緑あふれる広場とすることで、地域を潤す憩いの広場としての付加価値を生むことができた。さらにこのグリーンガーデンの配置の工夫により、建物を晴海通り側に配置することができ、1、2階の店舗の事業性を高めることにつながり、地域のみならず事業者としてもメリットのある配置計画となった。

もう一つの地域配慮のかたちは、4面がおのおの異なるファサードに現れている。一見、

奇異に見えるこのファサードは、キューブというコンセプトのもとに、それぞれの面が対峙する環境に呼応していることを示している。例えば北側2面は大通りからのグレード感という事業上の理由から全面ガラスとし、南東側は隣接する既存マンションに配慮した壁面で構成し、南西側は東京湾への眺望と日射負荷の軽減を考慮して、上下2辺支持のワイドスパン横連窓としている。

これにより年間空調負荷は効果的に下がり、近隣への配慮のみならず、エネルギー環境にも配慮したビルとして大きく付加価値を高める計画となった。

—

環境に呼応し多様な表情を生む エントランス壁面

オフィスエントランスについても建物全体と同様、外部環境との関係性を重視した計画となっている。天井高さ9.1mのエントランスホールは、幅35mに対し、奥行きがわずか6~13mであり、外部のアプローチ空間やグリーンガーデンと視覚的に一体化させることで、空間に広がりを持たせることを意図した。天井までの一枚ガラスで構成されたガラススクリーンは、内外の境界を曖昧化するよう平面に対して斜めに挿入され、2つの空間を柔らかく連続させている。

エントランスホールの大壁面は、エントランス空間と外部空間を全体として切り取る“屏風”のような機能を持ち、素材にはテラコッタルーバーが採用された。外壁材でもあるテラコッタを使うことにより、その壁はインテリアでありながらも外部とのつながりを意識した第2のファサードとしての役割を果たしている。

このテラコッタルーバーは、すべて同一の押出型を利用しながらも、形状を不等辺三角形とし、芯材を中心に一つひとつを回転・反転させることによって変化を生み出している。さらに人の視線の位置や動き、照明のパターン、自然光の色や角度などによって壁面にはさまざまな表情が生まれる。

ルーバーは上部に行くに従い開口率を上げ、背面からのアッパー照明の光を多く放ち、下部のテラコッタは横に向けることで隙間をなくし、手挟み防止と、高天井の空間の空調レターンチャンバーとしての機能を果たしている。

また、重いテラコッタをできるだけミニマムな部材で固定すべく、上部の梁から吊ロッドによって簾のように自重を吊り、水平方向も3段に1本の横テンション材を張ることによって、面内・面外の変形を抑えている。さらにテラコッタの圧縮に強い性質を利用し、数珠つなぎに吊られたテラコッタに圧縮力をかけることによって剛性を高めている。

こうした工夫によって、壁からの固定の支持材を7.2mピッチに広げることができ、アッパー照明を極力遮らないような計画となっている。

粗面加工を施したテラコッタの表面は光との親和性が増し、紙模型での照明実験からは想像できないほどの美しい光の伸びの効果を得ることができた。テラコッタの大壁面は、そのものが発光しているかのごとくまち並みを明るい雰囲気で照らし、地域に対するビルの顔としても重要な位置を占めている。

—

自然光と人工光が溶け合う ミニマルなディテールのトイレ

外部の環境との呼応によってさまざまな表情を持つもう一つの空間が基準階事務室のトイレである。センターコアから外壁側に突き出した配置によって自然光を採り入れることが特徴となっており、この自然光を最大限に活かした空間づくりを目指した。

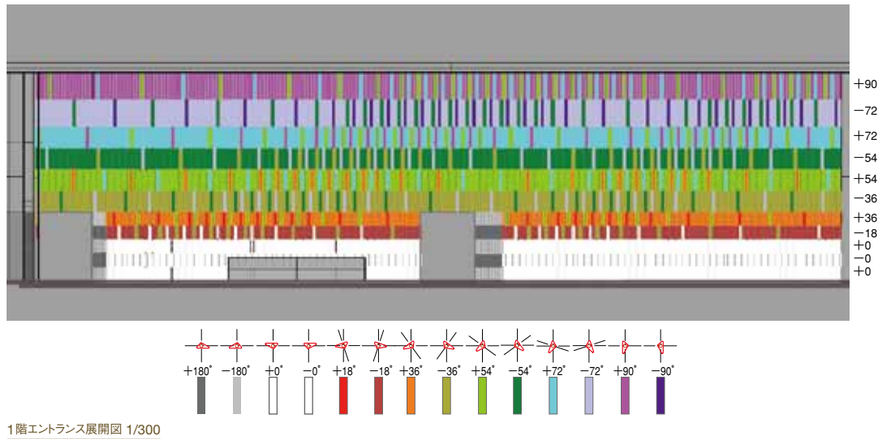
このトイレにはダウンライトがひとつもなく、白い天井や壁を間接的に照らすことによって明るさを確保している。自然光はこうした人工光と天井や壁面で混ざり合い、外部環境の変化によりトイレ空間全体が柔らかく変化する。外光を採り入れる全面開口は、自然光と人工光がシームレスに混ざり合うよう窓枠を埋め込んで影を消した。トイレ各所も影が出ないようにミニマルに納め、洗面台もライニングは指物家具のように建築と一体化した納まりとした。

目をつむると音が聴こえてくるように、自然光の入る窓という日常の要素を、建築の線や影を減らした空間で包むことによって、自然の微妙な変化や空間の質が見えてくるのではないかといった期待が隠されている。

—

この建物はすべて従来のミニマルな要素の組み合わせでつくられた建物である。しかしそれらを丁寧に組み合わせ、つなぎ合わせることによって豊かさを生み出し、ここでしかできない特殊解を導き、事業者を始め設計者、施工者のそれぞれの思いを結実させた建物となっている。

まきずみ・としゆき——清水建設設計本部プロジェクト設計部2部設計長／1967年生まれ。1992年、早稲田大学理工学部建築学科卒業。1994年、同大学大学院理工学研究科修士課程修了。同年、清水建設入社。
主な作品：豊洲ビッグドラム[2003]、山口銀行宇部支店[2006]、SIA新大手町ビルディング[2007]、九段第3合同庁舎[2007]など。



1階エントランス展開図 1/300

2

3

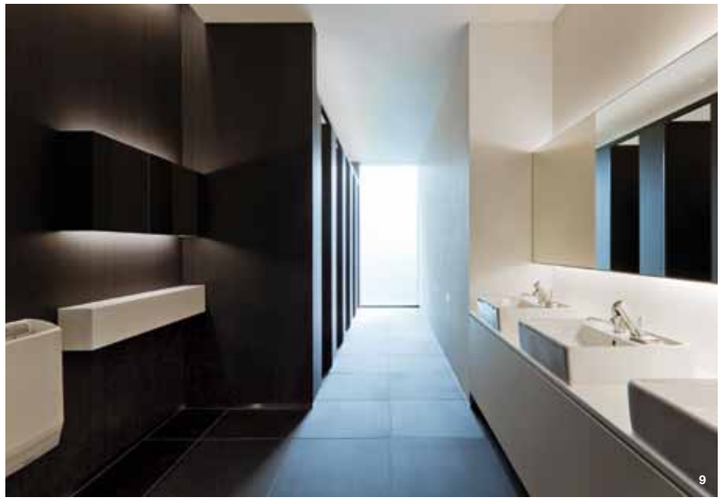
4

5

6

7

1——エントランスの壁面をグリーンガーデン側から見る｜**2**——オフィスエントランス｜**3**——ピロティから見る｜**4**——北側から見る｜**5,6**——テラコッタルーバーディテール｜**7**——北面全景


9

10

11

12

13

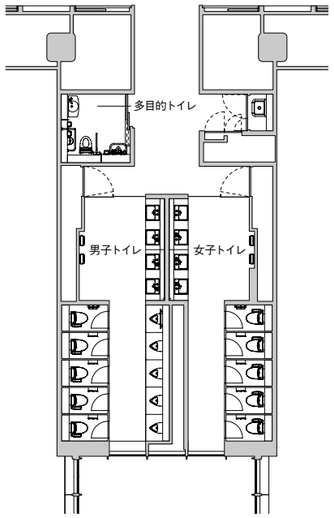
14

15

17

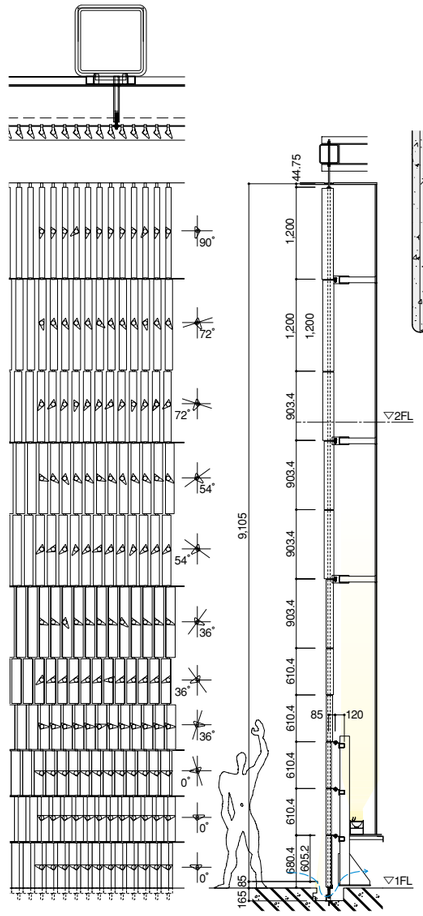
16

18

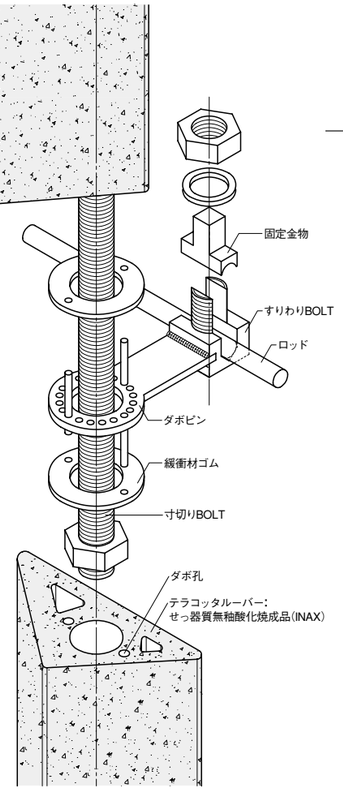


基準階トイレ平面図 1/200

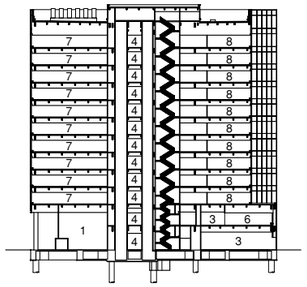
9,10,14——女子トイレ｜**11**——多目的トイレ｜**12**–**13**——男子トイレ｜**15**——基準階エレベータホール｜**16**——廊下｜**17**——トイレ入り口｜**18**——トイレ入り口のサイン



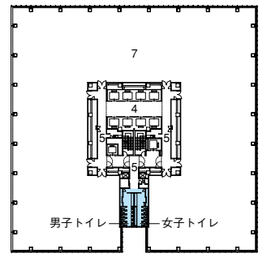
テラコッタルーバー取り付け詳細図1 1/80



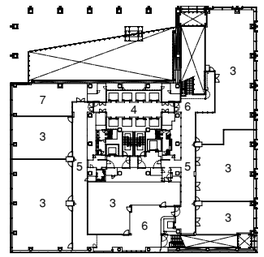
テラコッタルーバー取り付け詳細図2 1/4



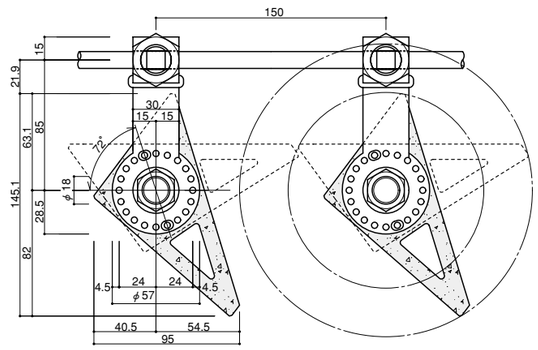
A-A'断面図 1/1,500



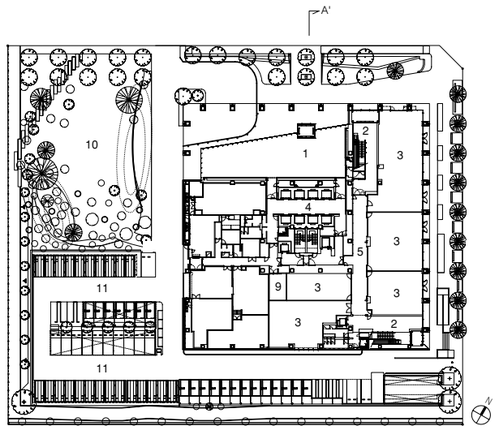
基準階平面図 1/1,500



2階平面図 1/1,500



テラコッタルーバー取り付け詳細図3 1/4



1. オフィスエントランス
2. 店舗エントランス
3. 店舗
4. EVホール
5. 廊下
6. ホール
7. 事務室
8. トイレ
9. 喫煙室
10. 公開空地(グリーンガーデン)
11. 駐車場

1階平面図 1/1,500

建築概要

名称:SIA豊洲プライムスクエア｜所在地:東京都江東区豊洲5-6-36｜敷地面積:10,255.07㎡｜建築面積:3,902.56㎡｜延床面積:42,483.25㎡｜規模:地上12階、塔屋1階｜構造:S造｜竣工:2010.8｜事業主:シンプレクス・インベストメント・アドバイザーズ｜設計:清水建設+フィールドフォー・デザインオフィス｜施工:清水建設

●INAX使用商品

エントランス｜テラコッタルーバー:TL-11/150×70/E0096-21(不等辺三角形形状ルーバー)‖基準階男子・女子トイレ｜大便器:C-24PRCN、シャワートイレ:CW-P22M(F)-TUC、小便器:U-406RCD、洗面器:L-533、自動水栓:AM-97K(100V)‖基準階多目的トイレ｜大便器:C-22PURC、シャワートイレ:CW-E55-CK、洗面器:L-275、自動水栓:EHMNCA3S4-AM123C(100V)、手洗器:AWL-71UAM(P)、汚物流し:S-203U